

ひまわり

新宿区立新宿養護学校

『試行錯誤』

校長 門脇 伸也

突然のような新型コロナウイルス感染拡大により、この先何がおきるかわからない中で、教育の形態、指導方法、在り方も問われています。

本校は、昨年度から既存の機器を使うなかで「遠隔授業」はどの程度のことのできるか、訪問学級で『試行』という名のもとに実施してきました。新宿区の教員用ネットワークセキュリティが他地区と比べても高いことで実現できました。

東京オリンピック・パラリンピック開催地である東京都、メイン会場である国立競技場のある新宿区は、通信環境に対するサイバー攻撃の標的となる可能性があり、これに対する警戒意識は高く、外部との送受信にはセキュリティそのものも高く設定されている区です。

こうした中で、既存の機器だけに頼るのではなく、通信機器メーカーの社会貢献事業との連携を模索し始めました。大手通信機メーカーと教員個人との連携による実験や研究成果は、以前からあります。ICTに対する若い教員の研究研修意欲熱は年々増えています。

「遠隔授業」は、不登校、障害、長期入院治療により通学の難しい子どもたちの学習を保障する手段として注目されてきています。



訪問学級の授業の様子

そこへ、突然のように新型コロナウイルス感染拡大、そして緊急事態宣言により休業の継続と学習の保障ということで、教育機関の動きが加速しました。本校の「試行」実施は、急遽高い波に乗り、滑り出した状態となりました。

4月22日の日本経済新聞は「『対面指導』の原則、崩さぬ文科省」と、休校下でオンライン授業が進んでいないのは、対面授業

にこだわる文部科学省の姿勢が原因と報じ、翌日、文科省は、異例の初等中等局長名の抗議文を日経に送付しました。

6月7日の東京新聞の日曜版は、「『遠隔教育』通わなくても学べる仕組み」と報じました。「日本では郵便でやりとりする通信教育、テレビやラジオを利用した高等教育などがあり、学校外の学びを提供してきました。しかし、近年主流のインターネットを通じた遠隔教育は、中国や韓国、欧米諸国に比べて大幅に遅れています。」と大きく取り上げていました。

このような記事は、よく見ると教える側の「先生」の課題が取り上げられることが多く見受けられます。実際のところ対面の授業を中心に教わってきた者が、直ちにオンライン授業に切り替わるかと言うと、簡単なことではありません。「場」を踏み「数」をこなす、機器を使いこなす。その上で「質」が高まるまでの試行錯誤が必要だということを、今、実感し始めたところです。

また、これからは発信する側の課題だけではなく、受け手の側の児童・生徒、保護者の課題も出てきます。受けた内容をどのように理解し、自分のものとするかです。

新学習指導要領の目指すところの「主体的・対話的、深い学び」の実現とは何か。1つの画面に多数の人が映っていたからといって、対話的で深い学びとなるか、改めて発信する側と受けとる側、それぞれに試行錯誤していくことが必要です。

こうした中で、6月3、4、5日とオンライン保護者会を実施し、本校の感染症対策をお知らせいたしました。

まだまだ試行は続いていくという状態です。

☆本校の感染症対策☆

<登校時>



人との距離を保ちながら、手指消毒・検温などを行っています。

*教室内でも検温しています。

<授業の様子（遠隔授業時）>



（写真は低学年の朝の会の様子です。）
換気のよい広い空間で人数を限定して授業を行っています。モニターに児童・生徒の様子を映し、反応を見ながら学習活動を展開しています。

<給食指導>



フェイスシールド、エプロン、マスクをして摂食指導に取り組んでいます。下膳時はさらに手袋をして、下膳担当の教員が後片付けをしています。

<医療的ケアの様子>



吸引時は、マスクやフェイスシールド、手袋や防護服をした状態で医療的ケアを行っています。

<下校後>



次亜塩素酸ナトリウムにて使った物や床の消毒をしています。

<教職員の感染症対策>



出勤時、エントランスで検温と手指消毒、職員室で健康チェック票の記入をしています。

職員室では、対面する教職員との間に衝立を作り、飛沫感染しないようにしています。職員の昼食時は、児童・生徒と別な場所で、密にならないよう順番で食べています。



ご入学、おめでとうございます。

小学部 彦田
待ちに待った日が来ました。入学相談や体験登校で顔は合わせていましたが、やっぱり入学式はみんな期待に満ち溢れた顔で輝いて見えます。式では、全員が落ち着いてニコニコと笑顔で返事ができました。

コロナウイルスのため、いつもと違った入学式となりました。でも、学校生活はここからが本番です。そんな時期を乗り越えて入学してきたみんなは、きっと強く、大きく、素敵な人へと成長していくことでしょう。

入学式を終えて

中学部 倉部
4月から延期になった入学式が6月1日に行われました。約2か月遅れて新1年生の入学をお祝いすることができました。今年の1年生は4名。入場場面では、拍手で迎えられながら嬉しそうな表情や凛々しい表情を見せ

てくれました。「オンライン朝の会」とはまた違った細やかな表情や温度感が伝わってきました。分散登校が始まり、ゆっくりのスタートとなりますが、一步一步先輩と共に学んで「ONE TEAM」を目指しましょう。

ご入学おめでとうございます

訪問学級 神野

6月1日、待ちに待った入学式。登校した小1、中1の皆さんの嬉しそうな笑顔は、これからの学校生活への期待に輝いていました。訪問学級も中学部1名が入学し、ご自宅で入学式を行いました。例年ならば訪問学級教員全員で何うのですが、感染症への配慮から、今回は代表の2名の教員が、校長先生と訪問学級教員からのお祝いメッセージを伝えました。中学部3年間の学校生活を、仲間や先生と一緒にますます楽しんでいきましょう。

休校期間を経て、オンライン授業が本格的に開始されました。環境的に様々な制限のある訪問学級ですが、この取り組みを通して、子どもたちのつながりや経験を更に広げることができるよう、工夫していきたいと思ひます。



フェイスシールドの寄付

中学部 畠山

中学部では休校期間中、医療機関に寄付し社会に貢献する目的でフェイスシールドを作りました。慶応義塾大学看護医療学部のデータをもとにしてフレームを3Dプリンターで作成し、フィルムはカードケースの素材で作りました。フィルムが頑丈で、透明性も高く評判が良い物となりました。



第一弾として5月28日、新宿区医師会に寄付してきました。医師会の事務局長様をはじめ区民健康センター院長様に対応して頂き、作った生徒達感謝の言葉をいただきました。



第二弾として6月4日東京看護協会に寄付して



きました。医療現場ではフェイスシールド等が不足しているとのことで、感謝の言葉をいただきました。当協会の「寄付のご報告」の中に本校の名前が掲載されています。

☆本校の動画教材 (YouTube) の紹介☆

本校では家庭学習補償の教材として動画を作成し、YouTubeにて児童・生徒を対象に限定して公開しています。一部をご紹介します。



大きなかぶ



「ドレミの歌
(合奏・合唱)」



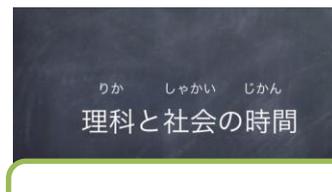
「おもちゃの
チャチャチャ」



「パプリカ」



「みんなの
たいそう」



「理科と社会の時間」

6月は学校便りを2回に分けて発行します。月予定などは次号にてお知らせいたします。